

家庭訪問中の革マル分子を捕捉撃退!

動労千葉を破壊しようとする革マル分子は、一四〇〇名組合員の固い団結の前に、手も足も出ない状況の中で、この間、千葉本部や各支部へのイヤガラセ、脅迫、謀略の電話をかけてくるという状態でありましたが、四月七日以降連日、いくつかの支部事務所や組合員の自宅へ対象を拡大し、訪問や電話による介入策動をいっせいに開始してきました。管内くまなく無差別に、家庭訪問や電話による策動が展開されましたが、自分の所属も氏名もかくしたまま一〇分と同一箇所居られず、車にとびのつて逃げ帰る という腰のすわらない「オルグ」であり、動労千葉組合員の一喝の前にスゴスゴと引き下がるというオソマツなものでした。特に成田支部では、「今、家に来ている」との組合員からの通報により、二名の革マル組織攪乱分子をとりおさえ、追及し、撃退しました。全組合員・家族の強固な団結で、卑劣な策動を粉碎しよう。

「腰のすわらない」オルグ!!

蘇我支部へ来た城石組織部長・小谷中執の態度は、「本部・革マルの自信のなさを象徴するもの」でした。

四月八日正午前に蘇我支部へ現れた一行は、支部長を先頭に「用はない、帰れ」の対応に、「昼飯でも一緒にどうだ」などと卑屈な笑いで誘いかけ、千葉本部へ電話連絡された気配を察するや直ちに逃げにかかり、千葉本部から到着した車に道を塞がれるとウターンして逃げ、幕張近くまで追跡され、夕方には銚子支部へ現れたものの一人の組合員もオルグすることができず、一〇分もたないうちに姿を消してしまったのです。

「あせり」にかられた動労革マルの末期的症状!

今回の一連の策動は、城石、小谷を先頭とする動労革マルがいかにか動労をセクト的に引きまわし「機関決定」を自分に都合のよいように拡大解釈し、メチャクチャな組織運営を強行しているかを明らかにしています。すなわち、動労千葉に対するやり方のあまりの無法さにアイソを尽かされて孤立した革マルが、なりふりかまわず「対策委員会」「林委員長代理」などという言い方で動き出し、まさに、これは、彼らの末期的症状であると言えます。

「卑劣な本部・革マルの手口」

全組合員・家族の皆さん! 今こそ、毅然とした対応が必要です。毅然とした対応をしないと彼らは何度でもやってきます。毅然とハネ返さず以外に彼らの策動をやめさせることはできません。

家庭訪問の場合も、電話の場合も、第一段階として、「現在の状況についてどう思うか」とか、「お宅の御主人は何時ごろ帰りますか」などという「調査」の役、いわゆるニコボンという懐柔策に出ています。

そして、それがダメだとわかると動労千葉執行部へのワル口やありもしないデマをもって誘い、それでもダメだと居直って脅迫するという卑劣な手口です。従って、彼らが、家庭訪問にやってくるなら、直ちに、支部又は千葉本部に連絡をして下さい。

彼らを撃退する最良の方法は、「話し合う気はない。帰ってくれ」と意志表示し、決して玄関から中へ入れないこと、いろいろ話しかけても相手にしないということとです。(それでもなお居座わろうとするなら、千葉本部・支部に電話してもらえば、直ちに役員を派遣して対処します。)少しだけでも甘い顔を見せると何回もしつこくつきまとわれます。

「組合員・家族一丸となって職場と生活を守ろう!」

彼らは、いろいろな機関の名をつかって、四月一〇日、一二日を中心に介入をしようとしています。従って、毅然とした対応で動労千葉への組織破壊策動をうち破り、生活と職場を守り抜いてゆこうではありませんか。

